

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 6 月 16 日 (2005.6.16)

【公開番号】特開 2004-40712 (P2004-40712A)
 【公開日】平成 16 年 2 月 5 日 (2004.2.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2004-005
 【出願番号】特願 2002-198641 (P2002-198641)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 N 5/225

G 0 3 B 7/28

G 0 3 B 17/18

G 0 6 T 1/00

G 0 6 T 7/20

// H 0 4 N 101:00

【F I】

H 0 4 N 5/225 A

H 0 4 N 5/225 F

G 0 3 B 7/28

G 0 3 B 17/18 Z

G 0 6 T 1/00 2 8 0

G 0 6 T 7/20 A

H 0 4 N 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 9 月 17 日 (2004.9.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 4】

信号処理回路 1 2 は、C C D 撮像素子 1 1 から得られる画像信号（アナログ信号）に対して所定のアナログ信号処理を施す。信号処理回路 1 2 は相関二重サンプリング回路（C D S）とオートゲインコントロール回路（A G C）とを有しており、相関二重サンプリング回路により画像信号のノイズ低減処理を行い、オートゲインコントロール回路でゲインを調整することにより画像信号のレベル調整を行う。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 1】

一方、図 1 7 は、複数の画像における周辺部の合焦評価領域 F R 1 のコントラスト値 C の変化曲線を示す図である。合焦評価領域 F R 1 においては、エッジ成分を多く含むような被写体が存在しないため、画像 G 1 2 のコントラスト値はほぼ同一値となっている。すなわち、周辺部の合焦評価領域 F R 1 におけるコントラスト値は、フォーカシングレンズのレンズ位置を変化させてもほとんど変化しない。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 9 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 9 5 】

その後、オートフォーカス制御部 2 0 は、取得された画像内の各合焦評価領域 $F R i$ のコントラスト値 C を求め（ステップ $S P 2 3$ ）、フォーカシングレンズを所定の微小量だけ近側に駆動する（ステップ $S P 2 4$ ）。そして、ステップ 2 5 において、レンズ位置が近側端に到達したと判定されるまで、ステップ $S P 2 1$, $S P 2 2$, $S P 2 3$, $S P 2 4$ の各動作を繰り返す。これにより、各合焦評価領域 $F R i$ におけるコントラストの変化曲線を得ることができる。